

第30期目録委員会記録 No.7

第7回委員会

日時：2005年11月12日（土）14時30分 - 16時30分

場所：日本図書館協会5階会議室

出席：永田委員長、平田、原井、古川、増井、茂出木、横山

<事務局>磯部

[配付資料]

1. MODSについて（3ページ・A4、平田委員）
2. 目録規則の改訂に関するメモ 補足（2ページ・A4、古川委員）
3. New Directions for Cataloging Codes from AACR2 to RDA-Resource Description and Access. October 2005（Barbara B. Tillett 38ページ・A4、永田委員長提供）
4. 総合目録における和漢古書書誌記述の考察（岡嶋偉久子 大学図書館研究74 8ページ・A4、事務局提供）
5. 継続資料の組織化と総合目録データベース（渡邊隆弘 同上 10ページ・A4、事務局提供）
6. 第30期第5回目録委員会記録（5ページ・A4、事務局）
7. 第30期第6回目録委員会記録（2ページ・A4、事務局）

[報告・連絡事項]

1. 韓国国立図書館創立60周年記念シンポジウム

10月18日にソウルで開催され永田委員長と横山委員が出席した。Tillett 氏による配布資料3に基づく発表とVIAFの進捗状況に関する発表のほか、目録規則と全国書誌について韓国、中国および日本から発表があった。翌日の懇談会では、整理の外注、韓国内での翻字方式や文字コードの不統一などが話題になった。直前にロンドンで開催されたJSCの会議に関する情報はあまり把握できなかった。また基本記入に関する議論も予期に反して行われなかった。

2. 書誌調整連絡会議

国会図書館が11月17日に本年の会議を開催する。関係諸機関および研究者12名の参加を予定している。本年は特にテーマを定めず、国会図書館および各機関が近年の動向・課題・活動について報告して討議する。

[検討事項]

1. MODSについて

平田委員より配付資料1に基づき、MODSの概要・実例・最近の動向について説明があり、次いで以下のような意見があった。

- ・属性およびサブエレメントをめぐる論議に注目したほうが良い。
- ・リレーターについて繰り返しの可否も含めて調べてほしい。
- ・MODS化の過程でどこに苦心したかを知りたい。
- ・国会図書館のデジタル・アーカイブ・ポータルにおける、和図書データのMARCからXMLへの変換について、次回に鈴木委員に説明を依頼する。
- ・書誌情報のデジタル化の過程で、目録規則が影響力をもつようにしたい。
- ・目録・件名・分類の領域間の協力関係が必要である。

2. 表現形の書誌レコードについて

古川委員より配付資料2に基づき、JSC等における表現形の記録に関する論議のなかから、表現形の記録を本体に据えそれに表現形の記録を添える構成の書誌レコードの案と、統一タイトルを表現形に拡張する案について説明があった。次いで以下のような補足および意見があった。

- ・論議の大勢としては、統一タイトルを表現形に拡張する方向に移行している。
- ・一定の形状を有しない表現形を記述対象とするのは無理があると思われる。
- ・現在の記述が中心でそれに標目が付加される方式から、標目中心に転換する必要があるかもしれない。

3. その他

他に次のような意見があった。

- ・実際に書誌データを作成している人からの声が委員会に寄せられない。どのように参加してもらうかが課題である。
- ・第13章の検討時にメーリングリストで述べた、複数標題紙間の選択に関する規定の新設の検討を、「NCR課題管理表」に加えてほしい。
- ・委員会宛にメールで、NCR 2.0.3.1（記述の情報源）の「エ）その図書以外の情報源」には、関係者の証言も含まれるのか、との問い合わせがあった。委員会としては一般論として含まれ得ると答え、後は現場の判断に任せることとする。

次回の予定

12月17日に変更。

以上